

令和6年度 自己評価表(中間)

江田島市立鹿川小学校

中期経営目標	短期経営目標	具体的な取組・方策	評価指標	実績値				評価 (自己評価の結果)	改善策
				令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度		
児童の学力の向上を図る。	①基礎基本の定着の徹底	①「本時で身に付けるべき知識・技能」を児童と確実に共有することで、単元や学習のゴールへ向けて主体的に学習できるよう授業改善を行う。 ①MIM(多層指導モデル)やドリルタイムの取組を通して、「聞く・話す・読む・書く・計算する・推論する」等の力を高めるための個別指導の充実を図る。	・単元テスト(国語・算数)【知識・技能】の平均到達度 ・標準学力調査における基礎問題の正答率	国語 81.4% 算数 81.5%	国語 81%以上 算数 81%以上	国語 81%以上 算数 81%以上	国語 81%以上 算数 81%以上	・単元テスト(国語・算数)【知識・技能】の平均到達度は、国語81.5%、算数85.6%であった。	①国語科においては、漢字学習に苦手意識をもっている児童が多数いるので、各学年の実態に応じて引き続き取り組む。 ①算数科の授業において、自己決定の場を設定した授業改善に取り組んでおり、平均到達度が上がった。引き続き、教職員共通理解のもと、児童がより自主的に授業に取り組むことができるよう研修を積み重ねていく。
	②思考、判断、表現力の向上	②長文読解や文章問題を正しく読み取るための方法(注目すべき文言に印を付ける等)を児童に紹介しながら継続的に指導する。 ②教科横断的なカリキュラム設計を行い、身に付けた知識・技能を活用できる場を設定する。	・単元テスト(国語・算数)【思考・判断・表現力】の平均到達度 ・標準学力調査における活用問題の正答率	国語 81.4% 算数 76.7%	国語 81%以上 算数 76%以上	国語 81%以上 算数 76%以上	国語 81%以上 算数 76%以上	・単元テスト(国語・算数)【思考・判断・表現力】の平均到達度は、国語85.7%、算数78.1%であった。	②国語科において、文章の前後関係を意識させた文章読解や「条件」を与えた書く活動に引き続き取り組む。 ②算数科において、式の意味を説明させたり、問題を図に表したりすることで、問題を読み取る力をつける。
	③学びに向かう力の育成	③学び方や考え方の選択肢を提示し、児童が問題を解く際に「自己決定」しながら主体的に学ぶことができるようにする。 ③1単位時間または単元の学習の中で、自らの学びを自覚したり見通しをもったりすることができるよう、「振り返り」の内容を充実させる。	・児童アンケートでの肯定的評価の割合 ・教師アンケートの記述分析	児童80%	児童 80%以上	児童 80%以上	児童 80%以上	③児童アンケートの主体的な学びに関する項目の肯定的評価は88.7%であった。教師アンケートの記述では、児童の発達段階や学級の実態に応じて、学び方や考え方についての自己決定の場を概ね意識的に設定しているという声が多かった。 ③児童アンケートの「振り返り」の充実に関する項目の肯定的評価は87.6%であった。教師アンケートの記述では、児童の発達段階や学級の実態に応じて「振り返り」の行い方を工夫しながら、「振り返り」の実施に意識的に取り組んでいる一方で、想定通り授業が進まず、「振り返り」を行う時間を確保できないこともあったという声があった。	③自己決定の場面を設定することで、子供たちが自ら学びに向かおうとする姿が増えてきたと考えられる。引き続き、児童が自己決定する場面を設定していく。 ③「振り返り」の場を設定することで、指定された観点から自らの学びを自覚したり見通したりすることができる児童が増えてきている。時間の確保の課題もあるが、引き続き「振り返り」の質を高めていくことを意識していく。
児童の豊かな心を育成する。	・規範意識を向上させ、毎日を気持ちよく過ごす児童を育成する。	・自分は「時間を守る」「大きな声で返事・挨拶ができる」という自信をつけるために、日常的に肯定的評価をしていく。 ・委員会活動を児童主体の取組にする。 ・学校・地域貢献活動を行う場を設定する。	学校アンケート ・児童アンケートでの肯定的評価の割合	時間を守る 93% 挨拶 94% 掃除 93%	時間を守る 90%以上 挨拶 90%以上 掃除 90%以上	時間を守る 90%以上 挨拶 90%以上 掃除 90%以上	時間を守る 90%以上 挨拶 90%以上 掃除 90%以上	・1学期の学校アンケートで、肯定的回答をした児童は「時間を守る」が98%、「挨拶をしている」が95%、「すすんで掃除をしている」が90%であった。 ・『自分たちの学校は自分たちで創る』を意識して学校生活を送っているに肯定的回答をした5・6年児童は97%であった。 ・6・8月のアダプト活動で全校児童が学校の草取りや周辺のごみ拾いを行い、学校や地域のために取り組むことができた。	・教職員自身が見本となる行動をし、よい習慣が児童に自然に身に付くようにする。児童のよい言動を見取り肯定的な評価をすることで、「時間」「挨拶」「掃除」に関わる児童の意識を高める。 ・委員会では、引き続き児童が主体となる活動を考え実行できるように支援する。 ・11月のアダプト活動では、学校や地域のためになっているという意識が高まるよう、声掛けをしていく。
児童の体力向上を図る。	①上体起こし及び50m走の種目を通して、体力向上を図る。 ②健康体力を高めるための生活習慣の定着を図る。	①サーキット運動や体支持運動を積極的に取り入れ、体幹を鍛える。 ①児童が主体的に外遊びを楽しむことができ、「走る」機会を増やすことができるよう委員会活動を充実させる。 ②生活時間を意識させ、健康の保持増進のために生活調を行う。(早寝、早起き、朝ごはん)	・新体力テスト・各学期の再計測の県平均を上回る割合 ・生活カード	上体起こし 25% 50m走 75% 運動好き 91%	上体起こし 50% 50m走 65% 運動好き 90%以上	上体起こし 70% 50m走 70% 運動好き 90%以上	上体起こし 70% 50m走 70% 運動好き 90%以上	・1回目の計測で、県平均を上回った割合は、「上体起こし」54.2%、「50m走」40.4%であった。 ・「運動が好き」と答えた児童は、91.0%であった。 ・5月の生活カードでは、「早寝」73.2%、「早起き」73.4%、「朝食」95.0%であった。	・業間に「50m走の測定」や「走る動きの入った遊びの紹介」等を委員会等の活動として取り入れ、児童の走ることに対する意欲を高める。 ・2学期半ば頃から外遊びを積極的に行うよう声掛けをしていく。 ・前回の達成率が低かった学年に対して、保健指導を行うとともに、カードへの養護教諭と栄養教諭のコメントの記載を継続する。 ・生活カードの取り組みの前に、学級で個人目標を記入する時間を確保し、達成への意識を高める。 ・生活カードとともに案内文を配布し、保護者への啓発を図る。

信頼される「わくわくする」学校となる。	①教職員による不祥事を0(ゼロ)にする。	①月1回の服務研修の確実な実施と過去の事例と防止策を研修内容として取り入れる。	・不適切事案の発生数	0件	0件	0件	0件	①月1回の服務研修は予定通り実施している。現在教職員による不祥事は0である。	①引き続き、研修を実施し、教育公務員としての自覚を忘れないよう、行動する。
	②業務改善を進める。	②会議は内容を確認し、必ず始まりの時刻と終了の時刻を設定して行う。	・時間外での会議の回数	0回	0回	0回	0回	②終会の終了時刻が、設定時刻より遅くなるがあった。	②週に2回の終会の協議内容の精選と開始時刻を早めることで、時間内に終会を終えることができるようになった。
	③保護者が相談しやすい環境をつくり、学校満足度を向上させる。	③定期的な「便り」の発行やHPの更新を行い、取組状況や児童の状況を発信する。	・学校満足度 【情報提供 教育活動】	95%	90%以上	90%以上	90%以上	③「学校だよりや学級通信、HP等で、子供たちの様子がよく分かる」96%、「学校は学校の教育方針を分かりやすく伝えている」98%	③引き続き、児童の肖像権等に気を付けながら、学校だより等で情報提供をしていく。
	④地域や学校外の人材を活用した授業を設定する。	④各学年で、地域・保護者連携を行い、地域や学校外の人材を活用した授業を行う。	・活用回数	全学年 42回	全学年 18回以上	全学年 18回以上	全学年 18回以上	④7月現在で、全学年10回実施	④引き続き、総合的な学習の時間、生活科、社会科の授業等で、計画的に地域や学校外の人材を活用した授業を実施していく。